

## 編集後記

私が上妻志郎先生の後任として編集委員長を拝命したのは、東日本大震災の翌年の平成24年(2012年)6月で、それ以来、3期6年間務めさせて頂きました。領域担当の編集委員も次第に増え、現在23名となり、査読者の先生は174名となります。本務でお忙しい中、編纂と査読を大変ありがとうございました。この編集後記も、6年間で和文を36回、英文を6回合わせて42回目になります。幸いにして、この編集委員会は「学術重視」の観点から進めることができました。この最終回の編集後記ではそうした6年を振り返ってみます。

- (1) **論文数**：近年、英文誌への投稿数は順調に増えてきました。それとともに、採択率も厳しくなり、掲載論文の質も上がってきたと言えます。review, original, case reportsなどで、全投稿数・採択率の推移は、131件・56%(2012年)、154件・51%(2013年)、167件・49%(2014年)、171件・40%(2015年)、203件・33%(2016年)、229件・36%(2017年)となります。最近では海外からの投稿数も増え、全体の2/3に上ります。ただ、本学会員からの投稿は、採択率が約60%であるのに対し、海外からの投稿論文の採択率はその半以下に留まっています。
- (2) **発行までの日数の短縮**：2009年7月から英文誌に導入したオンラインファーストを、2013年5月からは和文誌にも導入しました。その結果、審査終了からweb掲載までの期間が大幅に短縮され、和文誌原著で平均約6ヶ月間(うち審査終了からweb掲載まで70日間)、和文誌症例報告で約5ヶ月間(うち審査終了からweb掲載まで66日間)、英文誌では平均約4.4ヶ月間(うち審査終了からweb掲載まで40日間)となっています。3月に卒業・修了する学生の場合、前年の11月初めに英文で投稿し、その後、平均的に進めば、2月初めに掲載可になり、3月までにオンラインファーストで掲載されることとなります。ご活用下さい。
- (3) **教育的視点の査読**：本学会の編集では、査読は1回には限定せず、教育的見地から領域担当の編集委員が採択を決定するまで、幾度も著者に修正を依頼してきました。掲載可になった論文についての査読の回数は、和文誌では、1回が10%、2回が63%、3回以上が27%、英文誌では、1回が5%、2回が55%、3回以上が40%となります。査読者と編集委員の方にご負担を掛けていますが、著者の方は、査読での意見を是非次の研究や論文投稿に繋げて頂ければ大変幸いです。
- (4) **インパクトファクター値**：Thomson Scientifics社が英

文誌 Journal of Medical Ultrasonics に付与しているインパクトファクター値は、例えば2018年の値は2018年終了時に算出され、翌年の夏頃に発表になりますので、2018年6月の現時点では2016年までの値しかありません。2009年以降の値を示しますと、0.255(2009年)、0.412(2010年)、0.333(2011年)、0.653(2012年)、0.740(2013年)、0.615(2014年)、0.559(2015年)、0.455(2016年)となります。この数値を上げるため、Springerの担当の方にも編集委員会でインパクトファクター値などについてご説明頂き、議論を継続してきました。一般に、case reportsは引用されるものが少なく、採択率を厳しくした方がよいこと(他学会ですでにcase reportsは掲載していないものもある)、それでも貴重な症例は記録として残す必要があるため、本学会員の方から英文誌に投稿されたcase reportsについては、和文誌に「英文のまま」投稿して頂くことができるよう制度を変更しました。

- (5) **MEDLINEへの収載**：長年の念願でした、英文誌 Journal of Medical Ultrasonics のMEDLINEへの収載が2015年末にようやく決定し、PubMedには、Vol. 28(2001年発行)から収載されるようになりました。今後の世界的な拡がりに期待したいと思います。
- (6) **和文誌の特集**：英文誌への投稿数が増えた一方、和文誌への投稿は減っています。そこで、和文誌では、会員の興味深い内容や先端の内容などを「特集」という形で、編集委員の先生方に取り上げて頂きました。この6年間で、特集は17回になります。また、解説については、最近13論文を掲載しています。
- (7) その他：2014年10月から、和文誌についてもオンライン投稿・査読システムを導入し、電子的な投稿が可能となりました。

編集委員の先生方には長い間、大変ありがとうございました。また、お忙しい中、ボランティアで査読の任に当たられた先生方にも心から感謝申し上げます。今後も、超音波医学に関わる研究成果を公表し、将来に記録するため、是非、本学会誌を活用して下さい。さらに、こうした発行を通じて、その論文を読んだ若い研究者がより高みを目指すような、刺激を与え得る優れた論文が多数掲載されることを心から願っております。

金井 浩

東北大学大学院工学研究科電子工学専攻  
／医工学研究科医工学専攻

超音波医学

Japanese Journal of  
Medical Ultrasonics

第45巻 第4号 (通巻第306号)

© The Japan Society of Ultrasonics in Medicine

—禁転載—

本体価格 2,000円 + 税 (本誌購読料は会費に含まれます。)

平成30年7月15日発行

編集者 公益社団法人日本超音波医学会編集委員会 委員長 金井 浩

発行者 公益社団法人日本超音波医学会 理事長 工藤 正俊

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町2-23-1

お茶の水センタービル6階

TEL 03-6380-3711

FAX 03-5297-3744

印刷所 大村印刷株式会社